

港湾事業の重要性を伝える

キャスター・千葉大学教育学部特命教授
木場弘子

生活者の視点で交通政策や社会資本整備などの審議会に参加させていただいているが、「港湾」については、生活者としては直接的なユーザーというわけではないので、身近に感じにくい面がある。

しかしながら、貿易総量の99.7%が海上輸送である以上、ここでの検討内容が、もっと国民の皆さんに伝わるよう一層の工夫が必要だと考える。

<TOPIC1>

- ・先月、サハリンでLNG基地を視察。
- ・2019年末を目標に北海道電力がLNG発電所を石狩湾新港に建設すること。
東日本大震災以降、エネルギーの安定供給は我が国の最重要課題になっている。
- ・北海道ガスでは、それに備えて東京ガスの大型タンカーを使い、近々、石狩湾新港にサハリンからLNGを初めて輸入するが、石狩湾新港において-14mという水深が確保されていたことが、非常に重要なポイントになっている。
- ・ここで、日頃港湾分科会などで議論になっている港の水深を深くすることの重要性を実感。

★エネルギー資源の96%を輸入に頼る日本にとって、安定的な海上輸送と港湾機能充実は非常に重要。

<TOPIC2>

- ・雑誌の企画で、以前に「もしも、港が止まったら？」というテーマで、スーパーの陳列棚から商品が消える様子を作りだしたと聞く。
- ・このように、目で見て分かる具体的な広報活動を通じて、港湾及び港湾事業について生活者にもっと興味を持ってもらってはどうか。

★「港が支えている国民生活」について、より詳しく具体的にご理解いただけるよう広報活動に力を入れて欲しいと考える。

★教育現場でも海上輸送、港湾事業の重要性についての学習を早い段階から取り入れてはどうか？

例)身近な港について

- ・「国際バルク戦略港湾」は、どういう意味があるのか？
- ・港湾計画変更の意図はなにか？
- ・耐震強化岸壁は、どういう役割があるのか？

「今を伝える教育」=教科書では追いつかない情報(審議内容等)

⇒総合的学習に入れ込む